

大腸がんの腹腔鏡手術



川口市立医療センター

消化器外科

りゅう
柳

しゅん じん
舜 仁

大腸がんは罹患数(一定期間に病気にかかる人数)が全てのがんの中で一番多く、特に女性では死亡者数も最多のがんです。創が小さい腹腔鏡手術は、開腹手術に比べ痛みが少なく、早期回復にメリットがあり、全国的に普及してきています。当院の大腸がん診療は腹腔鏡手術に特化し、2020年の腹腔鏡手術率は8月末の時点で99%です。大腸がんは、周囲臓器への浸潤や高度リンパ節転移があった場合も、切除不能な転移が無いかぎり、手術によって根治を得られる可能性があります。当院では高度進行がんに対する他臓器合併切除や側方リンパ節郭清といった拡大手術も腹腔鏡で行います。手術では、腸管の吻合部が破綻する縫合不全や、周囲臓器の損傷、出血などの術後合併症が起こりえますが、これらを回避するために最新のデバイスを用い、近赤外光による蛍光ガイド下腹腔鏡手術を行っています。インドシアニングリーン(ICG)という薬や、蛍光カテーテル・蛍光クリップを使用し、病変部や血管、尿管を蛍光で光らせ、ナビゲーションとしながら安全に腹腔鏡手術を行います。通常では目に見えない腸の血流も蛍光で視覚化できるため、血流の良好な腸管を吻合部とし、縫合不全を予防する取り組みを行っています。手術は進歩していますが、大腸がん検診や大腸カメラによる早期発見が何より大事です。下血や便秘の症状があるかたは、かかりつけ医に早めに相談しましょう。